

フィルムツーリズムの多面的展開による地域振興 —東京都あきる野市を事例として—

○田中伸彦(東海大学観光学部)・下田佳奈(元東海大学観光学部)

キーワード：映画、観光、地域振興、東京都あきる野市

1. 研究の背景

フィルムツーリズム (FT) とは、映画やドラマに関係するコンテンツツーリズムの一種である。近年は、いわゆる「聖地巡礼」の様に、撮影に使用された地域が話題を呼び、観光客が押し寄せる現象が見られることから、エコツーリズムやグリーンツーリズム等と並んでニューツーリズムの1つとして注目されるようになった。

しかし、コンテンツツーリズムはニューツーリズムだと言われるものの古代から存在する。例えば、文化・芸術に触発された旅行は、日本でも和歌を詠む貴族等の間では歌枕への旅が行われていた。その後、近代に入り、旅行の大衆化と映画の発達とともに FT という概念が生まれたとされている。例えば、『ローマの休日』のイタリア・ローマのスペイン広場や、『二十四の瞳』の舞台である香川県小豆島など、国内外において映画のロケ地が観光地化することは、昔からよくある現象である(筒井 2013)。

近年の我が国における FT についての主な先行研究を検索すると、中谷(2007)は、徳島県鳴門市と香川県庵治町が FT という観光形態で、いかに観光地イメージが構築されたかを明らかにし、河野(2007)は、四国を対象に自治体アンケート調査等を行い、FT は特別な観光資源がない地域でも取り組むことができ、なおかつ取り組む上でデメリットが少ないと結論づけた。また、木村(2010)は、撮影地を軸に事例研究を行い、観光促進の契機としての映画制作から、観光促進の方法としての映画制作への変化がおきていることを指摘した。この様に、ロケ地として使用された場所が観光地化する現象について、なぜそういったことが起こるのか、また観光地化されることによってどのような効果があるのかなど、いくつかの事実が明らかにされているが、映画撮影やフィルムコミッション (FC)、聖地巡礼や映画撮影のものまでを含む多面的な FT が、地域でどの様に展開されているのかを明らかにした研究は、今のところほとんど見られない。

2. 目的・対象・方法

FT の成功事例は少なくないが、成功の理由は作品や地域によって異なる。観光客が増加した地域、経済効果があった地域、知名度が上がった地域というように、その地域によってもたらされる成果は違う。また、観光客の増加をとってみても、国内観光客が増えたのか、国外観光客が増えたのかなどの違いもある。つまり、地域を訪れる人が増えれば成功なのか、金銭的に豊かになれば成功なのか、知名度が上がれば成功なのか、地元住民に誇りが芽生えたら成功なのか、FT において何が本当の成功であるのかは明確ではない。実際のところ、どれも成功なのであろう。FT の多様な側面が、それぞれ成功をもたらす要因になり得ると言えよう。

本研究の対象地とする「あきる野市」では、2014(平成 26)年 4 月 1 日より「環境経済部 観光まちづくり観光課」に「FC 係」を新設した。市に FC に特化した業務を行う専任係を置くのは、日本では初めてのことと言われている。また、あきる野市では約 30 年前から、まちおこしを目的としたイベントとして映画祭を毎年開催しており、一方で自主制作映画といった映像を活用した地域活性化にも長年取り組み続けている。更に、あきる野市は、市を挙げて実際に一般の映画館において有料で上映される商業的な映画作品も制作している。あきる野市は、この様に多面的に映像や観光と関わっている。そのため、同市の歴史を追うことで、FT の多面的な展開の意義を、本論文では考察することを論文の目的とした。

方法としては、実際にあきる野市を訪れ、FT 関連の活動を行っているあきる野市役所職員兼映画監督の小林仁氏に、これまで行ってきた FT に関する活動や歴史等の話を伺い、資料を頂き、それらを分析した。

3. 結果

あきる野市は、1つの自治体の中で、実に多彩な FT に関する取り組みを行ってきた。このことは、日本全国の他の地方自治体と比較しても、非常に際立った特徴である。主な活動を挙げると、①映画祭、②自主制作映画、③FC、④劇場公開映画『五日市物語』の4つに大きく分けられる。なお、あきる野市における FT に対する取り組みを時系列的にたどると、表1のとおり纏められる。

3-1. あきる野映画祭

あきる野市の映像を活用したまちおこしは、今から約30年前に始まった。合併前の五日市町で、

表 1 あきる野市のフィルムツーリズムに関する年表

西暦	月日	内容
1985	3/19~24	第1回五日市映画祭
1986	7/23~27	第2回五日市映画祭
1987	7/22~26	第3回五日市映画祭
1988	7/28~31	第4回五日市映画祭
1989	7/26~30	第5回五日市映画祭
1990	7/25~29	第6回五日市映画祭 映画『ちっぽけな流れから』公開
1991	7/24~28	第7回五日市映画祭
1992	8/12~16	第8回五日市映画祭
1993	7/21~25	第9回五日市映画祭 映画『風に見える街』公開
1994	7/27~31	第10回五日市映画祭
1995	7/26~30 9/1	第11回五日市映画祭 秋川市と五日市町が合併→あきる野市誕生 映画『風に見える街』劇場公開
1996	7/23~28	第12回あきる野映画祭
1997	7/22~27	第13回あきる野映画祭
1998	7/28~8/2	第14回あきる野映画祭
1999	7/20~25	第15回あきる野映画祭 記録映画『轍—わだち—』公開
2000	7/25~30	第16回あきる野映画祭
2001	7/31~8/5	第17回あきる野映画祭
2002	7/24~28	第18回あきる野映画祭
2003	7/19, 24~27	第19回あきる野映画祭
2004	7/17, 18, 22~25	第20回あきる野映画祭
2005	7/23, 28~31	第21回あきる野映画祭
2006	7/22, 27~30	第22回あきる野映画祭
2007	7/21, 26~29	第23回あきる野映画祭
2008	7/19, 24~27	第24回あきる野映画祭 ドキュメンタリー映画『さくり』公開 市役所内にFC研究会を立ち上げ
2009	7/18, 23~26	第25回あきる野映画祭 環境経済部 観光商工課 観光まちづくり係で撮影支援の業務を開始
2010	7/17, 22~25	第26回あきる野映画祭
2011	7/30~31	第27回あきる野映画祭 市制15周年記念映画『五日市物語』劇場公開
2012	7/21, 26~29	第28回あきる野映画祭
2013	7/20, 25~28	第29回あきる野映画祭
2014	4/1 7/20, 24~27	環境経済部 観光まちづくり活動課 フィルムコミッション係を設置 第30回あきる野映画祭
2015	7/18, 23~26	第30回あきる野映画祭 市制施行20周年記念映画『あきる野物語 空色の旅人』公開

(出典：あきる野市資料 未公開)

1985(昭和60)年3月に第1回五日市映画祭が開催された。五日市を知ってもらいたいという町の観光産業課の思いから企画され、JRや自治体の観光ポスターなどを全国的に手掛けるデザイナーの高橋敏彦氏、そして役場職員で映画監督の小林氏といった映画に精通した人がいたために、映画祭が開催できた。

この映画祭は1995(平成7)年に秋川市と五日市町が合併し、あきる野市となってからも「あきる野映画祭」へと名前を変えて31年続いている。第2回映画祭からは五日市町の主催となり、7月下旬に開催されるようになった。あきる野市には、夏にバーベキューや川遊びで秋川渓谷沿いに多くの観光客が訪れるので、時期をずらして閑散期に映画祭を行ってほしいという要望もあったが、一年で一番美しい景色の期間に来てもらうため、夏休みの時期でもある7月の下旬に開催されるようになった。

3-2. 自主制作映画

小林氏の話によると、映画祭が始まって5~6年目のとき、運営が順調なこともあり、映画祭のメンバーは自分たちで映画を撮りたいと考え始めた。そして、「五日市キネマ団」を組織し、第1作目の映画『ちっぽけな流れから』を制作し、1990(平成2)年の第6回五日市映画祭で発表した。映画祭を開催していたおかげで映画業界の人々と繋がりがあり、自主制作映画と言いながら俳優の尾美としのり氏らが出演している。

1993(平成5)年には、「五日市キネマ団」の自主制作映画第2作目として、『風に見える街』が制作され、第9回五日市映画祭で発表された。この作品は1995(平成7)年に、劇場公開映画となり、一般映画館で有料公開された。続いて1999(平成11)年には、『轍一わだち一』という五日市町の歴史を描いた記録映画が制作された。さらに、2008(平成20)年には秋川で古くから行われている鮎の伝統漁法をテーマにした『さくり』というドキュメンタリー映画も制作した。

ごく最近も2015(平成27)年8月に、市制施行20周年記念映画『あきる野物語 空色の旅人』が制作され、市の記念式典にて初公開されている。この作品にも女優の平山あや氏や、子役の小林星蘭氏などが出演している。

3-3. FC活動

小林氏は、公的なFCを作りたいという願望があったが、初期のうちは市役所の仕事以外の時間を使って個人的にロケ地を探すなど、FC活動を一人で行っていった。

その後、環境課に所属されて公園担当となったため、ロケ地に公園を使いたいという撮影隊の要望に応えられるようになった。部分的ながら、FCの様な仕事を開始したのである。そして2008(平成20)年頃、小林氏は自主的に集まった7~8人の職員でチームを作り、2か月程FCについて研究をして報告書をまとめ、市長へのプレゼンテーションを行った。

その結果、市の観光商工課の業務の一部としてFC業務が始まった。しかし、実際に活動を始めると問題点が多くあった。例えば、依頼の多くが「この場所を使いたい」ではなく「このようなイメージの場所を探してほしい」というものであった。そして、たとえイメージに合った場所を見つけても、撮影に使用されるには限らなかつた。また撮影支援の他に本務の仕事があるため、独立したFCのようにロケーション探しの依頼を受けることができなかつた。小林氏の当時の印象では協力依頼の30%程しか実施できなかつたそうである。

一方で、映像のもたらす効果に市は期待した。撮影誘致にさらに力を入れるため、市は2014(平成26)年4月、「環境経済部観光まちづくり活動課」に「FC係」を設置するに至った。FCを行っている地域は東京都内で現在63ヶ所あるが、ほとんどが観光協会もしくは役所の観光課等の兼任業務に過ぎない。FC係という専門の係を役所に設置するのは、日本初の試みとのことである。FC係の主な仕事内容は、撮影誘致などの活動業務と、自ら撮影をする撮影業務である。FC係が新設されたおかげで、毎年100件

前後で推移していた外部からの撮影などに関する問い合わせが一段と増えた。それと同時に、以前は断っていた撮影協力の依頼も受け入れ可能となった。一緒に同行してロケハンを行え、臨機応変な対応が可能のため、あきる野市はロケ地として使用してもらえるようになっていった。

3-4. 劇場公開映画『五日市物語』

1995(平成7)年に秋川市と五日市町が合併して発足したあきる野市は、2010(平成22)年に市制15周年を迎え、その記念として映画『五日市物語』を制作することになった。

制作総指揮を市長が行い、市民団体である五日市キネマ団を中心に、監督の小林氏のもと、約1年をかけて制作された。市をPRする意図もあるが、それだけの映画を制作してしまっただけでは一般市民や他市区町村に住む人々に興味を持ってもらえない可能性があるため、あきる野市の美しい風景を活かした心にしみる本格的なシナリオの映画を制作することになった。映画は都内の映画館で劇場公開された。主演女優の遠藤久美子氏や俳優の田中健氏、井上純一氏ら出演者や、作品の内容が気になって映画を観た人がロケ地各所を訪れてくれたり(ロケ地観光)、『五日市物語』＝あきる野市と思ってくれたりするような映画(地域ブランディング)となった。

4. 考察および結論

ここまで①映画祭、②自主制作映画、③FC、④劇場公開映画『五日市物語』の4つに分けて、あきる野市のFTについて述べてきた。

まず、映画祭を行うことで映画祭のファンができ、それを目的にあきる野市を何度も訪れる人が現れる。映画祭は毎年行われているため、リピーターを獲得することが可能となる。観光地においてリピーターがいるということは、その地域が活性化するために極めて有意義なことである。

次に、監督やスタッフが自ら住む町を自主制作映画のロケ地として使うことで、映像を通してその町の魅力をさらに引き出すことができる。また、その映画の場面に合った場所をすぐに見つけることができ、町をよく知っているからこそ撮れる映像が撮影できる。

FTにおいて、FCはとても重要な役割を担う。ロケ誘致が活発になり、その対応もスムーズにできるため、ロケ地として使用される可能性が格段と上がり、知名度向上や地域活性化へとつながる。

そして、『五日市物語』は多くの地元の人々に愛されている作品であり、この映画を通してあきる野市に興味を持った人が少なからずいたことは間違いない。また、撮影への協力などによって、住民にとってより一層思い入れの深い作品にとなったと思われる。

このように、あきる野市では地元の人々を意識したFTを多面的に展開し、観光産業を通じた地域活性化や知名度の向上、地域の誇りの醸成に成功したことが分かった。また、市全体でFTに取り組んでいるため、住民との連携がきちんと取れていることも、あきる野市の利点であることが明らかになった。

引用文献

- 筒井隆志(2013)「コンテンツツーリズムの新たな方向性～地域活性化の手法として～」、経済のプリズム No110 参議院事務局企画調整室 pp.10-24
- 中谷哲弥(2007)「フィルム・ツーリズムに関する一考察—『観光地イメージ』の構築と観光経験をめぐって—」奈良県立大学研究季報 第18巻 奈良県立大学 pp.41-56
- 河野洋(2007)「四国地域におけるロケ地観光について」調査研究情報誌 ECPR 2007(1) えひめ地域政策研究センター pp.73-80
- 木村めぐみ(2010)「フィルムツーリズムからロケーションツーリズムへ—メディアが生み出した新たな文化—」メディアと社会2 名古屋大学大学院国際言語文化研究科 pp.113-128

本論文全般にわたる参考資料

小林仁「あきる野映画祭30回の歴史」未公開資料